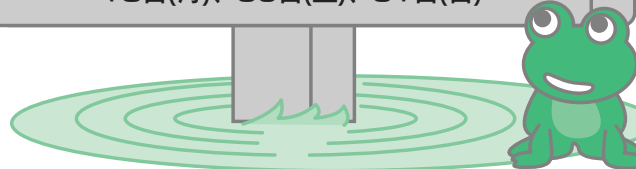


TOPICS

★長浜市役所 本館1階ホール
9時～17時
【日程】6月27日(月)～7月15日(金)の平日
7月21日(木)、22日(金)、28日(木)、
29日(金)、8月4日(木)～26日(金)の平日

★アル・プラザ長浜 1階正面入口付近
10時～16時
【日程】7月2日(土)、3日(日)、9日(土)、
10日(日)、16日(土)、17日(日)、
18日(月)、30日(土)、31日(日)



問 総務省滋賀県テレビ受信者支援センター
＜デジサポ滋賀＞ ☎077-503-0101
(平日9時～21時、土日祝9時～18時)

現在のアナログ放送は今年の7月24日までに終了し、地上デジタル放送に移行します。皆さんが引き続きテレビを視聴できるように、移行の約1か月前から、総務省 滋賀県テレビ受信者支援センター(デジサポ滋賀)が、臨時相談コーナーを開設します。

会場では、「地デジ対策はどうすれば良いの?」「今のアナログテレビをそのまま使っているのはどうすれば良いの?」「共同受信施設の地デジ化はどうすれば良いの?」など、デジタル放送を受信するための質問にお答えします。

総務省が開催する無料の相談コーナーです。機器の販売や契約の勧誘などはありませんので、気軽に会場へお越しください。



地デジ臨時相談コーナーを開設します

地上デジタル放送受信のための支援をします

総務省 地デジチューナー支援実施センターでは、地デジの準備が難しい世帯向けの支援事業(簡易なチューナーの無償給付など)を実施しています。今年1月からは支援が拡大され、世帯全員が市民税非課税の措置を受けている世帯も対象となりました。



NHK放送受信料全額免除世帯への支援	市民税非課税世帯への支援
①生活保護世帯等の公的扶助を受給している世帯 ②しょうがい者のいる市民税非課税世帯 ③社会福祉施設入所者 上記に該当し、NHKの放送受信料が全額免除となる世帯	①世帯全員が市民税非課税の措置を受けている世帯 上記に該当し、NHKと放送受信料契約を締結する意志のある世帯
問合せ先 ナビダイヤル 利用できない場合 0570-033840 044-969-5425	問合せ先 ナビダイヤル 利用できない場合 0570-023724 043-332-2525
【受付時間】 平日 9時～21時 土日祝 9時～18時	

地デジを口実にした悪徳商法にご注意を!

テレビ調査や工事を口実に料金を不正に請求したり、総務省やテレビ局などの関係機関の職員をかたり、切り替え手数料などを架空請求する悪質な事例が発生しています。デジタル放送への対応で総務省、テレビ局その関係機関からお金を請求することは一切ありません。

TOPICS

長浜アーバングラスコンペティション

第2回コンペ公募開始 (エントリー受付は7月20日まで)

まち並みや周辺環境との関係性を十分に配慮し、長浜らしい“ガラス”という特徴的な素材を生かした新たな景観創造プランを募集します。

11月13日に開催する公開2次審査において、グランプリに選ばれた作品は、平成24年度に制作し、南呉服町(下図)に設置される予定です。

ガラスのまち 鼓動高鳴る



公募内容等詳細・応募はWEBから
<http://urban-glass.com>



「現代の金屏風」(第1回コンペグランプリ作品)
受賞者 橋本 誠氏 (東京都)

長浜の歴史と現代を投影するシンボリックなガラスの金屏風。
長浜で今を生きる人々、美しい町並みや水辺が黄金の屏風に映りこみ風景のすべてがアートとなるアイデアです。

*第1回コンペのエントリー結果
合計286件

- 内訳
【国内】北海道～沖縄
【海外】アメリカ、カナダ、イギリス

キーパーソン



沢田昌宏さん
長浜アーバングラスコンペティション運営委員会委員長

ノスタルジックな雰囲気や人気で数多くの観光客で賑わう黒壁スクエア。そこは、ガラスをテーマにした美術館やショップ、工房などが集まり、歴史ある街並みと調和し新しい文化を発信しています。

長浜の中心市街地はかつて、休日でも人通りがないほど衰退してしまっていました。しかし、「ガラス」によるまちづくりにより、今では年間200万人が訪れる街になりました。

「この20年で黒壁は長浜を象徴する存在になりました。でも、まだやれることがあるはず。より多くの人に親しまれる長浜にするため、文化としてガラスを根付かせたいんです。」そう語ってくれるのは、アーバングラスコンペティションの仕掛け人の一人、沢田昌宏さん。

アーバングラスとは、まちの生活・景観・歴史と融合する空間をガラスを主素材として設計したもので、その活動の始まりは平成21年。沢田さんたちは、「ガラスのまち長浜」のイメージを確立させるため、ガラス文化を醸成する活動としてこのコンペを企画し、世界に公募している。

「このコンペは、ガラス工芸作品の優劣を競うものではありません。これからの長浜をつくるためのパートナーを求めているのです。先は長いかもしれませんが、ガラスのまち長浜がアーバングラスに囲まれるのが待ち遠しいですね。」そう言って笑う沢田さん。

希望に満ちた笑顔としっかりと未来を見据える力強い眼差しで熱い思いを語っていただきました。